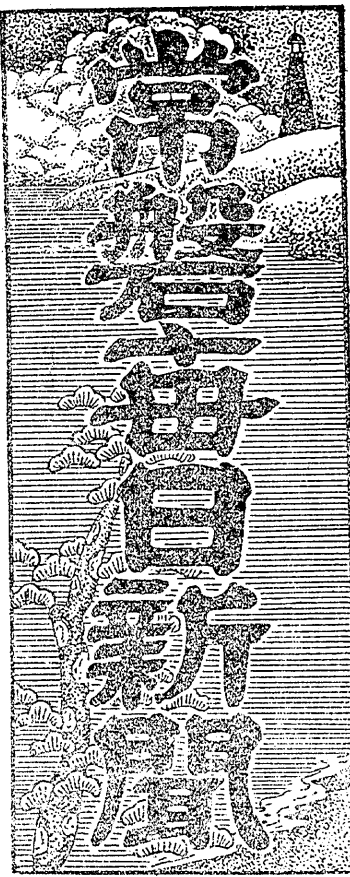


【刊夕】 日二十月一十



五種郵費十五月一錢貳金一價五  
五十五行一語字三十號五日刊休  
日翌ノ日祝祭、日曜日刊休  
治文時川 入印人國編集行或  
五三町橋長町平郡城石縣島福  
番〇三六話電 研開新日每磐常 所行發

### 謹告!!

「常磐毎日印刷株式會」は不眠不休の大努力を繼續して工場設備の完成を急いで居りましたが愈々明日から開業するの運びに至りました、従つて「常磐毎日新聞」は同社の新工場に依つて印刷に附される事となりましたが明日は廣告の組置其他設備の爲め休刊し、明後日即ち十四日から以前の通り倍大に復活し、然も記事行數を増加して郷土新聞としての新面目を發輝する事となりました。どうぞ従來に倍する御聲援を願ひ上げます。

十一月十二日

## 常磐毎日新聞社

### 研究會の五議員

#### 本日來郡視察す

##### 水谷社會課長の案内で

不況窮狀を詳細に

既報、研究會所屬の貴族議員子爵土岐章、岩城隆徳米倉昌達、梅園篤彦、湯地幸平の五氏は本縣に於ける農村經濟狀態を視察するに於て左記の日程によつて今日二日來郡し石城郡野崎村に於て本縣の代表する磐城炭礦と人山採炭の炭礦業を視察し十三日は蔬菜の産地として農産物を視察するため信夫郡岡山村に向ふ筈で最近不景氣のため窮狀に喘ぐ農村の經濟殊に炭礦農産物養蠶の三代表地を詳細視察する譯で縣からは水谷社會課長が案内する。

十二月午後一時三十分  
常磐炭礦本館着磐城村に  
至り炭礦並農村狀況を視  
察し四時三十分本館  
四時四十分中着通過四  
十五分中着午後七時半郡  
山縣着同夜は熱海温泉泊  
十三日午前九時山縣發  
時二十六分福島着少憩  
晝食の午後一時自動  
にて出發し一時二十分信

### 常陸落ち

後醍醐天皇  
十三日會の講演  
平町十三日會では十三日午後六時半より常磐銀行支店樓上に考古學研究家大枝伊太郎氏を聘し「後醍醐天皇常陸落ち」の講演會開催する。

### 麻雀課税に

#### 平町から異議

平町では今夏以來町内に開設營業されてゐる麻雀俱樂部三ヶ所に對し九月分からは遊藝場第二種税として月額一圓の町税を賦課徴收してゐるが麻雀税は課税の明文にない處であり一方縣下他市町では現在徴收してゐる向が一ヶ所もなく異議があるの十日金森内務部長宛に公文書で是が可否を照會した。

### 徹底的整理

#### 縣稅滯納が積る計り

平町に於ける縣稅の滯納は最近の不況につれ益々激増した。

### 入營除隊の

#### 歡送迎旗を廢止

石城郡の町村長會が附議  
時節納一般に期待

石城郡町村長會は十八日午前十一時より平町團體事務所樓上に於て團體入營兵付添ひ其の他を附議する筈であるが入營兵の付添ひに就いては從來種々

### 持兇器注意

#### 女流政客の 故障演說會

但し書に  
「通俗演說だ、よくわかるコイ」とノックから驚かした女流政客と自稱する女達の政談大満會なのださうだ。場處は聚樂館、十三日の午後四時から會費が十錢ピストル、短刀、仕込杖、爆彈機關銃を持つてくるなど記してある處など大いに人を食つたものだが一度は聞いて置くのも満更ら物好きとばかりは云はれまい。

### 玉川村に小作争議

#### 一反歩當り二俵弱の不作

本年度の農作物收穫狀況は全国的に非常に良好なる成績を収めて居るが是れはまた意想外の不作にて小作争議が起りかけて居る村が納付に困り小作人側では九日小作人大會を開き地主に對し三割乃至五割引を要求したが一部の地主は之を認められ共大部分の地主は

### 同窓會員諸姉に謹告

十一月十六日午前十時恩師酒井ミヨ先生銅像の除幕式を舉行し午後一時より同窓會總會可致に付き御參集被下度謹告候也  
昭和五年十一月

### 平陽女學校同窓會

ある、夫れは石城郡玉川村で昨年物議を醸したが本年度の收穫は水田一反歩當り二俵弱のもので小作料の

乗用自動車貸切賃金表(半日基準)

市内		湯本		植田		方面		方面		方面		方面		方面	
鐵道以南	鐵道以北	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本
七〇〇	七〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇
鐵道以北	鐵道以南	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本
七〇〇	七〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇
鐵道以北	鐵道以南	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本	湯長谷	湯本
七〇〇	七〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇

一、貸切乗用自動車五人乗客用ノ賃金トス  
 二、往復ノ場合ハ右賃金ニ壹圓増トス  
 三、容待一時間壹圓トス  
 四、一日貸切(十時間)金拾五圓トス  
 五、半日(五時間)金八圓トス  
 六、以上ノ料金ニ違反シタル時ハ臨時區間外ノ運轉停止セラルルコトアルベシ  
 昭和五年拾壹月六日  
 福島縣自動車協會平支部

お醤油はヤマフル

醤油味噌  
たひら正宗  
鯉節食料品

鹽屋  
山崎合名會社

福島縣平町  
電話(營業部)二一〇番  
(醸造工場)二七番

十二月十三日 二十三夜様お供用

團子の粉 一升 二十錢

糯のしな 一升 二十四錢

平町土橋 マルマン商店 電話四八九番

竹本錦祥丈に御寄贈之  
張御披露を兼

秋季 義太夫大温習會

◇期日十一月十二日 二日間雨天に不拘開場  
 ◇時間は... 毎夜六時より 主催 若葉會  
 ◇入場料は一切申受ません 劇場 聚樂館

新製品 祇園だんご

最中 泉屋

電話六六八番

深刻な不景氣に  
修善料半額値下斷行

秋山時計店

平町有聲座前

従来片濱路線と小名濱路線は協定あれど殆ど競争に陥り爲めに事故頻發各位に危険と御迷惑を煩し誠に恐縮して居りましたが今回警察署長並に堀江工業社長の權威ある御盡力に依り従來の各別發着所を全廢し新に平町四丁目と江名築港入口に共同停留所を設置更に協定賃金を値下して交互三分毎に發車致させ最も安全親切をモットーとし營業致しますから一層の御援助と御活用を切に御願します尙減額したる料金左に

平町	10錢
堀割	15錢
石池	20錢
橋明	25錢
橋津	30錢
内沼	35錢
磯	40錢
間	50錢
江名	60錢
作中	

但し一區間金拾錢均一トス  
 昭和五年十一月十五日より實施

平江名間乗合自動車 營業者

いさ下頼依御てし心安



計時物難  
作工理修

店計時堂幸精

り通橋土町平